

亀山御坊永代経法要の由来

人はひとり生まれひとり去っていきます。その間多くの出会いと別れを体験します。この娑婆では別れない出会いはありません。親子も夫婦も兄弟も知友も必ず死別をもつて終わります。このとき、残された者は断ちがたい恩愛の情にさらされて、「いのち」を正面から問わざるを得ません。この仏縁を通して人は自らが何者であるかを知るものです。

たしかに、「さよなら」だけが人生の見方を決定づけるものなのです。「さよなら」は、今まで命を生きながら命に無知であった私が、共に生きた命との別れを通して始めて本当の命に触れることなのです。

仏様はこの命の本性に向かつて思案をし、考えを巡らし、願いをかけ、合掌しておられることを知ったとき、愕然とせざるを得ません。ここから生老病死を貫く命の全貌を明らかにするお念仏の世界がはじまります。

「さよなら」とは仏縁です。私が仏願を抛り所にした新しい自分に巡り逢うことです。このような命の依つて来たる由縁と行く末を自覚した自立的な生き方を菩提の道といえます。

永代経法要の源泉を探ると、この菩提の道を、わが子わが孫は勿論、一人でも多く方々に気付いてほしい、という先祖先達の永代の思いに突き当たります。

下記の通り永代経法要を修行いたしますご参集下さい。ご案内申し上げます。

合掌

亀山御坊永代経法要日程

四月十三日(土)・十四日(日)

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂
午後一時 永代経法要 本堂

導師 本徳寺 大谷昭仁師
布教 西願寺 佐々木大観師

お説経は、お勤めの後、蓮如堂で聴聞します。

蓮如忌法要のご案内

四月初旬、境内のサクラが満開になり、散っていきます。花命の短さを直視して永代経法要が勤まります。ツツジが咲く頃、五月十二日には蓮如上人のご法要です。境内に梅檀の香りが漂う頃、この頃にはコロナへの過敏な反応も落ち着きを見せているかも知れません。是非とも仏縁にお合いください。

個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご希望の方は左お問合わせ下さい。

問合先・本徳寺寺務所・電話(235)0242

亀山御坊永代経法要のご案内

本徳寺では下記の通り、永代経法要が勤められます。「永代経」という名のお経が別にあるわけではありません。仏の願いに目覚めた人が尊いみ教と仏のお徳を子々孫々に伝えるために勤める法要です。

死別を縁に人の命のありようで行く末を仏の願いの中に見出した人が、故人に代わって布施行をつくし、仏徳賛嘆の行に自参して故人との関係を成就させる浄土真宗独特の営みです。さらに、この行事を通してより深く仏法を聞く機会に出会うことが肝心です。

礼讃文にこうあります。「人身受け難し、今既に受く。仏法聞きがたし、今已に聞く。この見今生に向かつて度せずんば、さらにいずれの生に向かつてか、この身を度せん」。人に生まれることはまれなる縁であり、仏法を聞き仏になることはさらに難しいことです。「棚からぼた餅」ですら口を開けなければ餅は口には入りません。仏法を聞くことも同様です。

このように永代経法要はわが子わが孫は勿論、一人でも多く方々に気付いてほしい、という仏縁のあつた先達の永代の思いに支えられているのです。

下記の通り永代経法要を修行いたしますので謹んでご案内申し上げます。

合掌

亀山御坊永代経法要日程

四月十三日(土)・十四日(日)

午前七時半 晨朝勤行 本堂・蓮如堂
午後一時 永代経法要 本堂

導師 本徳寺 大谷昭仁師
布教 西願寺 佐々木大観師

お説経は、お勤めの後、蓮如堂で聴聞します。

蓮如忌法要のご案内

四月初旬、境内のサクラが満開になり、散つていきます。花命の短さを直視して永代経法要が勤まります。ツツジが咲く頃、五月十二日には蓮如上人の法要です。境内に梅檀の香りが漂う頃、この頃にはコロナへの過敏な反応も落ち着きを見せているかも知れません。是非とも仏縁にお合いください。

個別納骨壇利用のご案内

亀山本坊で自己管理型の納骨壇の利用が出来ます。ご希望の方は左お問合わせ下さい。

問合先・本徳寺寺務所・電話(235)0242